

2026年度 大学入学共通テスト II BC(本試験) 分析

試験時間70分

難易度	出題分量	出題傾向
変化なし 昨年と同様、丁寧な誘導のもと進めやすいものであった。	大きな変化はなし 問題文の量やページ数が増えてはいるが、大きな変化はなかった。選択問題についても分量の差はほぼなかった。	一部変更あり 例年出題されていた「指數関数・対数関数」からの出題はなく、「図形と方程式」からの出題であった。また選択肢から答えを選ぶ問題が多くなった。
総評		昨年と同様、丁寧な誘導もあり、計算量も少なかったが、数学をきちんと勉強しているかがはっきりする内容だったと思われる。それによって、解く時間のスピードや正確性に差が出やすく、普段から公式の証明や問題の解法をいくつか知っている受験生にとっては解きやすいものだっただろう。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	図形と方程式	15点	2円の位置関係および領域の内容からの出題であった。(2)は絶対値を含む式ではあるが、誘導は丁寧であり、計算量も少ないのでしっかりと得点していきたい内容である。
第2問	三角関数	15点	和積の公式を導き、それをを利用して最大値を求める内容であった。普段から公式を導いて勉強している受験生にとっては、誘導の意味が手に取るように分かるものだったであろう。合成することもなく計算量も少ない。手堅く得点したい設問であった。
第3問	微分・積分	22点	前半は与えられた関数の導関数と条件からグラフを選択する問題や積分計算することはないが、3次関数の積分について問われた。後半は関数が与えられない中で条件からグラフを選択する問題で、今までにない内容であった。 導関数について正しく理解しているかが問われるものであった。計算量は少なかった。

第4問	数列	16点	階差数列を題材に、数列の和を求める内容であった。誘導が丁寧であり、前問の考え方を利用できれば平易な内容である。ただし、誘導こそあるが一般項を差の形にして和を考えしていく発想はしっかりと身に付けておきたい。
第5問	統計的な推測	16点	(1)は正規分布に従う確率変数についての問題で、誘導も丁寧であり基本をしっかり身に付けた受験生にはやりやすかったであろう。 (2)以降は昨年の本試験でも出題された「片側検定」であった。誘導は丁寧であり、問われている内容も同じではあるが、標本の大きさの違いに注意して解き進めていきたい内容であった。
第6問	ベクトル	16点	平面ベクトルからの出題であった。平面上の点の位置を表す条件式が与えられて誘導に乗って進め、最終的には存在領域を考える問題であった。最後の存在領域を考察する設問を除くと比較的解きやすい内容であった。
第7問	複素数平面	16点	複素数平面上における軌跡の問題であった。国公立大2次試験や私立大学でもよく出される内容であったため、見慣れている受験生にとっては解きやすい内容だったのではないだろうか。絶対値のある等式を2乗して軌跡を求める方法だけでなく、本問のように複素数を具体的に設定して求めることも知っておきたい。

1・2年生へのワンポイントアドバイス

昨年とあまり変わらない難易度・分量であったが、数学の勉強をきちんとしているかそうでないかがはっきりする内容であった。教科書をきちんと理解し、公式などの証明をできるようにした上で、しっかりと問題演習をして基礎学力を身に付けよう。そして、少しづつで良いので1つの問題に対し、複数の解法も身に付けておきたい

日頃から計算練習をしている人にとっては、計算量が少なく感じられる設問である。次年度の共通テストにおいてそのように感じされることを目指し、日々の計算練習はしっかりと行おう。そういう地道なことをやり、時期を見て共通テストの予想問題などでしっかりと練習を積みたい。